

「北九州港開港 130 周年記念事業 & JWPA10 周年記念洋上風力シンポジウム」での
期成会向け洋上風力発電セミナーの案内

JWPA 上田悦紀

洋上風力発電は世界では年商約 2 兆円の大産業です。欧州北海には、高さ約 200m、重量約 800 トン（基礎を含め約 2000 トン）の大型風車が続々建設され、ドイツやイギリスに電力を送っています。アジアでは台湾が本格的な建設を始め、台湾政府の国産化政策の後押しにより、沢山の台湾企業が仕事を受注しています。日本も港湾法改正（2016 年）と再エネ海域利用法（2019 年 4 月施行）で事業環境が整い、数十件・合計 10GW 以上の開発計画が進行中です。北九州港でも数年後の洋上風力発電所（約 200MW）建設に向けた港湾整備が始まっています。

洋上風車の建設は、数百トンの重さの機器（ロータ、ナセル、タワー、基礎）を何十個も海上に輸送して、クレーンで組立てる大工事です。事前調査、海底地盤の整備、機器の製造と輸送、据付、海底送電線の敷設まで、何十種類もの仕事が発生します。大手の建設会社だけでなく、地元企業にも多くの仕事が任されることとなります。今回は、洋上風力発電と、それに関連する仕事について、期成会の皆様に説明いたします。